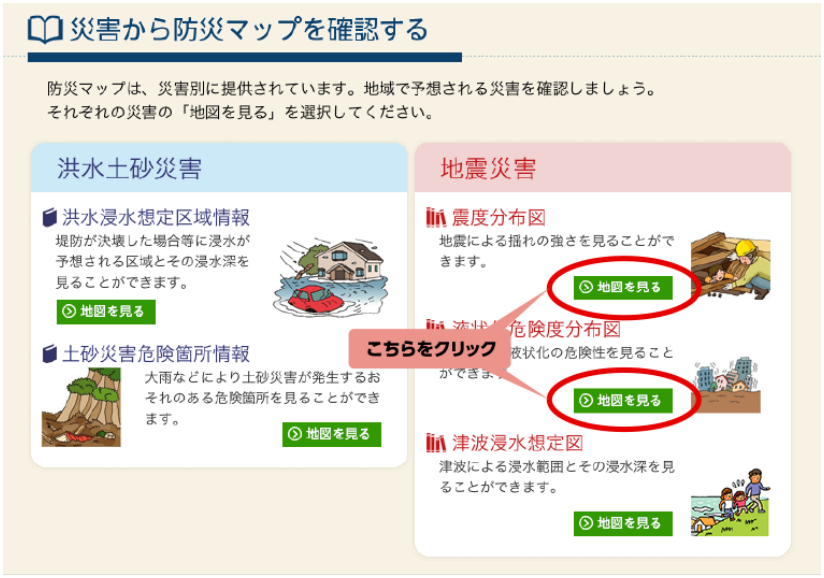
地震にどう備える?

住んでいる場所を確認しよう!

市町村によっては、地震による最大震度や建物の全壊率、液状化の危険度などを表示したマップを作成しています。市町村役場に問い合わせて入手するか、市町村のホームページで確認してください。

「岡山県防災マップ」の活用

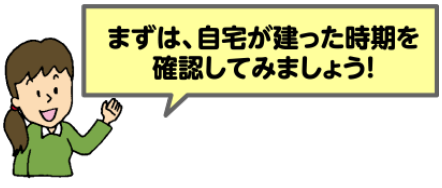
http://www.gis.pref.okayama.jp/bousai/
○県内各市町村のハザードマップ一覧が確認できます。
○郵便番号、住所または地図上から災害ごとの危険度情報を確認できます。



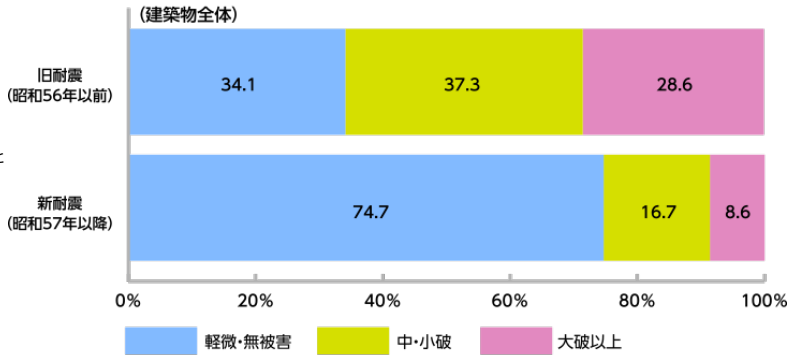
地震に強い家をつくろう!

地震が来た時に危ない家ってどんな家?

最初に確認していただきたいのは、住宅の建った時期です。
昭和56年5月に住宅の耐震基準が大きく変わり、それより前の基準を「旧耐震」、後を「新耐震」と呼びます。
旧耐震で建てられた木造住宅の約9割は、大きな地震が来ると壊れてしまう可能性があり、実際に、阪神・淡路大震災のときも大きな被害がありました。

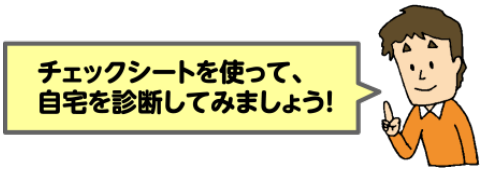


阪神・淡路大震災における建築時期による被害状況



※平成7年阪神・淡路大震災調査委員会中間報告(建設省)より

住宅の建った時期以外にも、地震に弱い住宅の特徴はいくつかあります。
チェックシートの「誰でもできるわが家の耐震診断」を使って住宅の強さを簡単に診断することができます。
このチェックシートは、各市町村の窓口で配布しているほか、（一財）日本建築防災協会のホームページでも見ることができます。
（http://www.kenchiku-bosai.or.jp/seismic/kodate/wooden_wagaya.html）

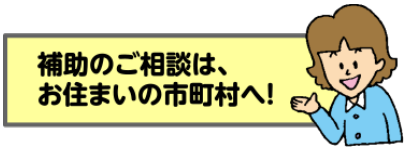


（一財）日本建築防災協会発行

地震に弱い住宅を強くするにはどうしたらいいの?

旧耐震で建てられた地震に弱い住宅を、新耐震で建てられた住宅と同じくらいの強さに補強することを、「耐震化」といいます。
耐震化は、以下の3つの流れですすめます。

①現況診断…住宅の地震に対する強さを、県へ登録されている建築の専門家が行います。（壁を壊したりすることはありません。）
②補強計画…現況診断の結果、補強が必要な場合は、補強方法などを、住宅所有者と専門家が一緒に検討します。
③耐震改修…補強計画に基づいて、柱や壁や基礎などを補強する耐震改修工事を行います。

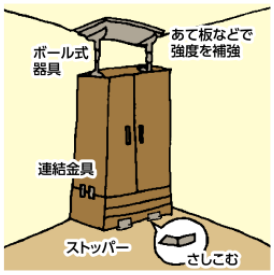


壁を軽く叩いて
劣化状態をチェック

家具類の転倒・落下・移動を防止しよう!

タンス

ポール式器具はタンスの奥の方（壁側）で、天井や家具の硬いところに取り付けます。
また、天井側だけでなく床の側もストッパーなどで固定し、上下に分かれている家具は連結しておきましょう。

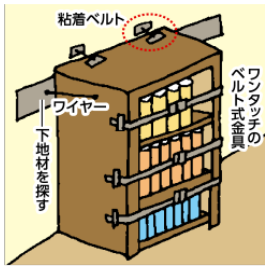


食器棚

食器棚の本体はタンスと同じように金具などを用いて固定します。また、開き戸が開かないようにとめ金を付けたり、ガラス部分にガラス飛散防止フィルムを貼ったりして、ガラスや食器が凶器にならないよう工夫しましょう。

本棚

タンスと同じように、壁の中の硬い所や下地材のあるところを探して、金具やワイヤーなどで固定します。また、本棚の端の硬い部分にヒモやベルトなどを取り付けて中の本が飛び出さないようにしましょう。

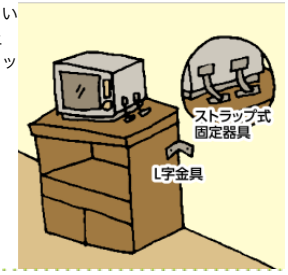


冷蔵庫

主なメーカーの冷蔵庫の後ろ側の上部には、ベルトの取付口や取っ手があります。そこに転倒防止用ベルトを通して、ベルトの端を壁の下地材があるところに金具などで固定しましょう。

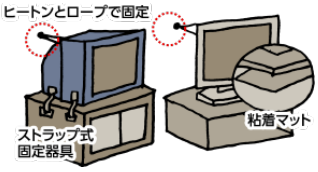
■電子レンジ・オーブン

まずは、電子レンジ・オーブンを置いている台を壁または床に固定します。その上で、電子レンジ・オーブンと台と粘着マットやストラップなどを使って固定しましょう。



■テレビ・パソコン

テレビの取扱説明書に転倒防止法についての説明がある場合は、それに従いましょう。テレビをテレビ台に固定するには、粘着マットやストラップ式の固定器具などを使う方法があります。テレビを壁などに固定するには、ベルト式器具やヒートンとロープを組み合わせて使う方法があります。



阪神・淡路大震災での死亡、ケガをした人の原因

平成7年1月17日午前5時46分に発生した兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）では6,433名もの尊い人命が失われました。**その8割以上が家屋倒壊・家具転倒等による圧死・窒息死**です。
阪神・淡路大震災が残した教訓として、まず、家の中（周り）を安全にし、自分の身は自分で守る心構えを持ち、いつ来てもおかしくない災害に対し、十分な備えをしましょう。

●死亡した人の原因

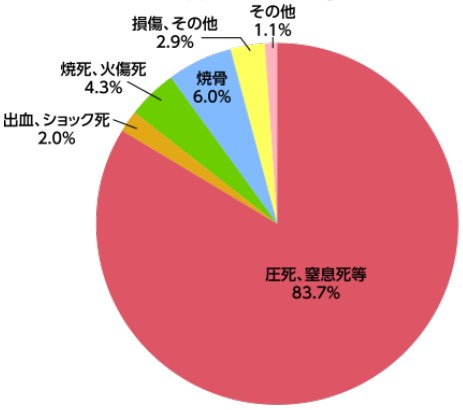


図　兵庫県警の資料より

●ケガをした人の原因

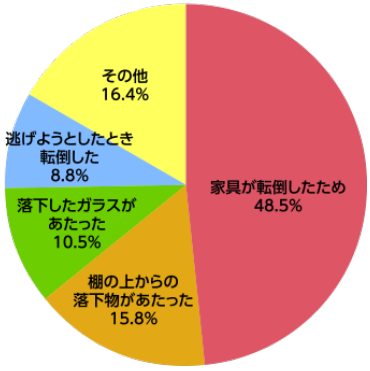


図　神戸市消防局の調査より